

4月 オレンジ色のカモシカ



当歳(生まれた年)のオレンジ。白い全身に脚だけが
ややオレンジがかっている

動物写真家 須藤一成

1



オレンジの背中に乗りかかって、やんちゃぶりを発揮する子カモシカ

細やかに子ども気遣う

個体識別して特定の個体を追し
続いていると、その個体に愛着が
湧いてくる。オレンジの姿がしば
らく見られないと、「何かあった
のでは」と要らぬ心配をしてしま
う。

その後も時々姿を現し、白い全身が徐々にオレンジ色を帯びていった。次の冬には全身が鮮やかなオレンジ色になった。このカモシカを僕はオレンジと名付けた。オレンジは、辺りにいる子連れの雌と繩張りを巡って時折角を突き合わせて戦い、負けて逃げて行つたものだった。それでも3歳になる頃には、その繩張りを獲得していく感動を覚えた。

9年間撮影を続いているオレンジ色のカモシカがいる。最初の出会いは2011年3月だった。多くのカモシカの体色は黒っぽい灰色なのだが、このカモシカは全身が白く、脚がオレンジがかつた薄茶色をしていた。角は細くて短く、まだ1歳になっていない。カモシカの出産は5月が多いので、このカモシカは10年5月に生まれたのだろう。母カモシカと離れて、単独で生活できるのかと心配になるくらい小さく、わらわ華奢に見えた。それでも2歳を超える積雪となつた川の中でも、無事に雪の季節を乗り切ったのだから、野生の強さに僕は感動する。

オレンジは自分の繩張りを移動し始めているようで、今後新たな生活が始まりそうだ。

秋になると、子カモシカはオレンジと離れて時々単独で過ごすようになつた。晚秋には、オレンジと一緒にいる姿はほとんど見なくなつた。たまに偶然出会つてしまふら、一緒に過ごすことがあるくらいだ。

色は黒っぽい灰色で、秋に見かけた父親の色を受け継いでいる。子カモシカは、オレンジのそばを離れずにぴったりと寄り添つている。オレンジは、草を食べながらどんどん歩いて行く。子カモシカは草や灌木につまずきながらも懸命に遅れまいと付いて行く。段差があるところで子カモシカが躊躇していると、オレンジはすぐに引き返して段差のないほうへと誘導する。何も気にせずにさっかと歩いているように見えても、子カモシカの動きを細やかに気遣っている。カモシカの雄は、子育てに全く関わることないので、母と

A close-up photograph of a golden takin (Budorcas taxicolor) lying down on a rocky, mountainous slope. The animal has a thick, golden-brown coat and two prominent, curved black horns. It is surrounded by rocks, dry grass, and some green pine branches in the background.



すどう・かずなり 1961年、京都府夜久野町（現福知山市）生まれ。イヌワシに魅せられ、滋賀を拠点に撮影に取り組む。米原市在住。写真集『Golden Eagle イヌワシ』（平凡社）など。